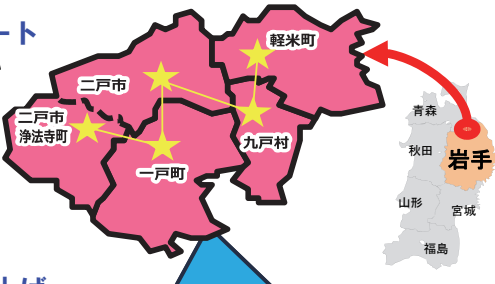


- ◆ 岩手県最北部に位置する二戸市、軽米町、一戸町、九戸村の4市町村は、畜産を主体とする農林業のウェイトが高い地域。目立った観光資源も少なく、人口減少が顕著であり、地域活性化・地方創生の取組が必要不可欠な地域。
- ◆ 盛岡財務事務所は、農林業の振興など共通の重要課題を抱える4市町村が、市町村の枠組みを越えて広域連携を推進することができるよう、地域のメインプレーヤー(地方公共団体・商工団体・地域金融機関)が一堂に会する「カシオペア地域活性化フォーラム」を開催(平成28年3月24日)。
- ◆ 同フォーラムは、次世代を担うカシオペア青年会議所を中心とした青年層が主体となり、取組が中長期的に継続するよう企画。

1. 成果事例の概要等

○ カシオペア地域全体の活性化をサポート

盛岡財務事務所では、人口減少が著しい二戸市、軽米町、一戸町、九戸村の岩手県最北部4市町村(以下「カシオペア(注)地域」)における広域エリア全体での地域活性化・地方創生に向けた取組をサポートする方針を決定。



(注) カシオペア
旧浄法寺町(現二戸市)を含めた5市町村を結びカシオペア座に似ていることから平成3年に命名された。5つの星が手をつなぎ輝くようにとの願いが込められている。

○ 盛岡財務事務所「カシオペアPT」立ち上げ
平成27年11月、当所中堅・若手職員を中心とした6名で構成するプロジェクトチーム「カシオペアPT」を立ち上げ、カシオペア地域における具体的な地域活性化・地方創生に向けた取組の検討開始。

○ 広域連携のカギとなる「カシオペア青年会議所」へのアプローチ
盛岡財務事務所「カシオペアPT」は、カシオペア地域の次世代を担う青年層が活発に活動する「カシオペア青年会議所(以下「カシオペアJC」)」に対して、同地域の発展に向けた広域連携の取組を提案し、「地域活性化フォーラム」の開催を決定。

○ 「カシオペア地域活性化フォーラム」の枠組み協議
地域ニーズを踏まえたフォーラムとするため、「カシオペアJC」を中心に、「カシオペアPT」と「二戸市」の3者において、同フォーラムの枠組みを協議し、地域のメインプレーヤー(地方公共団体・商工団体・地域金融機関)にアプローチ。
※ 特に、広域連携を推進したい二戸市では、自主的にPTを組成するなど積極的に参画。

- 【地域活性化フォーラム運営のポイント(3者協議事項)】
- ・次世代を担う青年層主体の運営。
 - ・中長期的な議論を展開するため継続的に開催。
 - ・メインプレーヤー総意による具体的協議事項等の決定。

○ 地方版総合戦略、地域経済分析システム(RESAS)の分析・活用
「カシオペアPT」では、同フォーラムが効果的な協議につながるよう、カシオペア地域の4市町村における地方版総合戦略を整理しながら共通課題を抽出。その共通課題を踏まえ、RESAS活用による「カシオペア地域」の現状分析を実施。

2. 成果事例の具体的な内容等

○ 第1回「カシオペア地域活性化フォーラム」(28年3月24日)
◎出席者(17機関、42名)
二戸市、軽米町、一戸町、九戸村、二戸地域振興センター(岩手県)、「カシオペアJC」、4市町村商工会、岩手銀行、東北銀行、北日本銀行、盛岡信用金庫、日本政策投資銀行、日本政策金融公庫、商工組合中央金庫

◎内容
①地方版総合戦略から見たカシオペア地域の現状説明【「カシオペアPT」】
・産業構造の特徴(農林業・食料品製造業の強み)
・交流人口の特徴や人口増減の推計 等
②地域のメインプレーヤーにおける地域活性化に関する取組状況
・農林業といった地場産業の振興
・地方創生に向けた地方公共団体と金融機関との連携協定締結 等



フォーラムの様相

◎意見交換
・地域資源の有効活用、PFI/PPPの活用に向けた官民連携などニーズは様々。
・ネットワーク強化に向けメーリングリストを整備。
→日常的に全機関で協議できる体制が構築され、次回協議事項も検討。
・次回開催時期を28年9月に決定。

広域連携の必要性を感じていた参加機関全てから高く評価され、東北財務局管内初となる4市町村をエリアとする広域連携フォーラムの開催につながった。

3. 今後の課題と盛岡財務事務所の対応

《今後の課題》
○ 地域のニーズを踏まえ、多くの関係機関が認識を共有し効果的な協議につながる場を適時に提供し、地域活性化の取組の進展を図る。

《今後の盛岡財務事務所の対応》
○ 引き続き「カシオペアPT」を主体にカシオペア地域の広域連携の推進をサポート。
○ 今後の同フォーラムの運営にあたっては、「カシオペアJC」が中心となり、メインプレーヤーの総意により次回の具体的協議事項等を決定するなど、継続的な開催につなげていく。